

# 日刊 労働千葉

85. 12. 12

No. 2115

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二、二二七、二〇七

## 「10万人首切り」の事実をあばき、国論二分の大論戦

十一・二八・二九ストは、中曽根・国鉄当局の総力をあげた圧殺攻撃をはねかえし、圧倒的勝利をかちとつた。勝利の第一は、ストライキで闘うことによつて初めて「分割・民営化」の本質を満天下に暴きだした事。全国民に改めて分割・民営化の賛・否を問ひ、十万人の首切りを許すのか否かをめぐり世論を二分することに成功した事だ。これこそ中曽根の最も恐れていたことなのだ。

### 労働者の怒りの決起で 反動プランをズタズタにした

国鉄「分割・民営化」とは、十万人もの労働者の首を切ることによつて総評労働運動の中心部隊である国鉄労働運動を叩きつぶし、もつて全労働者の闘う基盤・権利を奪ひ、労働者・人民を有無を言わず戦争への道へ引きづりこむという凶暴な攻撃である。

中曽根は「分割・民営化」に政治生命をかけていたのである。十万人の首切りを一切の論議や反対を許さず貫徹するためにこそマスコミを総動員し、世論を反動的に操作し、「国民の名」において、これを強行せんとしていたのである。

事実、中曽根の反動プラン通り「赤字」キャンペーン、国鉄労働者への許しがたい誹謗中傷、「国鉄再建は国民的課題」や「雇用の確保」というデマキャンペーンの洪水は、動労「本部」革マルの裏切り、国労中央の屈服と相まって反動的世論となりつつあったのである。

黙っていたらたいたした論議もなく、われわれ国鉄労働者は「悪者」の汚名を着せられたまま、首を切られ、露頭に放り出されようとしていたのである。

### 第二波・第三波で

もつと激烈な論議をわきおこせわれわれの二四時間ストは、この理不尽に対する労働者の怒りの決起であつた。

そして、われわれの実力決起は、瞬時にして中曽根のデマキャンペーンを打ち破つた。「雇用の確保」どころか、十万人以上の大量首切りが公然と進行していること。「再建」どころか、国鉄の解体、その一切の犠牲が労働者と国民におしつけられようとしていることが満天下に明らかとなつたのである。規定の事実と思つていた大多数の国民のなかに大論議がわきおこり、今や世論は完全に二分させられたのである。

動労「本部」革マルや国労をも取りこみ、「ストなどやれない」「もはやたいした論議も反対もなくスムーズに行く」と、労働者をあなどり、見下し、思い上つていた中曽根や杉浦は、ストライキの力に腰をぬかし、錯乱し、凶暴な弾圧に打って出てきている。しかし、騒げば騒ぐほど「何故ストをやつたのか」「十万人もの首切りが正しいのかどうか」が大論議となるのである。

もはやデマやペテンで「分割・民営化十万人首切り反対」の声をおしつぶす事などできなくなつたのである。いよいよ反撃の第一歩が切り拓かれた。この大成果にふまえ、第二波・第三波を実現し、「分割・民営化」―首切り問題が世論の中心議題となるような、もつと激烈な流動化をつくりだそう。

まさに、これこそが中曽根の最も恐れられていることであり、首切りを阻止し、分割・民営化を阻止する唯一の道なのだ。確信をもつて第二波・第三波へ！

## 中曽根 杉松 根崎 松崎

# 国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 / 再建の行方大論戦

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！